

# 教育ボランティア ニュースレター

第11号  
発行日 平成24年 12月

平成24年度も、多くの教育ボランティアさんに、本学の教育にご協力いただきました。

このレターでは、

「慢性病療養生活支援論」  
での**教育ボランティア**さんの  
様子や学生の学びをお届けし  
たいと思います。

## 「慢性疾患の患者さんの主治医は<患者さん>です」

平成24年10月10日（水）慢性病療養生活支援論

今年から本科目で初めてお二人の教育ボランティアさんに来て頂きました。お一人は胃潰瘍、もうお一人は変形性膝関節症と長年にわたりつきあっておられました。お二人ともに”治らない病気”と医師から言われたときのお気持ちや治らない症状を受け入れることへの戸惑いを語っておられ、学生からも「治らない病気と医師から言われたとき、どんなお気持ちでしたか。」との質問がありました。

慢性疾患は一生続く病気ですので、病気のことは医療者より長く病気とつきあっておられる患者さんご自身が一番よくわかっておられます。慢性疾患の看護は、このような患者さんの体験にもとづく知恵や生活上の工夫を知ることから始まります。授業の準備として、お二人には1ヵ月前に授業でお話し頂くポイントについて打ち合わせを行いました。また、お二人のご好意からお話しに関連したメモも配布資料として使わせて頂きました。授業では、お二人ともに痛みを減らすための工夫（空腹を避ける、時間に余裕をもって動くなど）、医師との付き合い方（症状は告げるが病名は言わない）、治療法についての最新の情報の収集と選択（図書館で勉強する、医師から情報を得る、医療者の親戚に聞く）などについて冗談を交えながら教えて頂きました。

授業後の学生たちの感想には、「お二人が病気や治療法について、とても専門的な知識をもっているのが驚いた」「家族は患者をサポートする存在とばかり思っていたが、時には（構わず）ほうっておいてもらうほうが良いこともあると初めて知った」「患者さんそれぞれの考え方や思いを知り、それを尊重することが大切だとわかった」「治らない病気と聞いていたので、入院している患者さんのような方を想像していたが、生き生きと元気にお話しをされているのを見て患者さんのイメージが変わった。」など貴重な学生の気づきが書かかれていました。これらの内容から、今回教育ボランティアさんのお話しを通して慢性疾患の患者さんを身近に理解するという授業のねらいは十分に達成できたと思います。

（慢性病看護学分野：池田清子）

### 慢性疾患とは？

糖尿病や高血圧、難病など長期にわたり治療・リハビリテーションを必要とする病気の総称です。慢性病のゴールは治すことでなく、医療者と患者さんとご家族が協力して病気のコントロールをしながらその方らしい生活を送ることです。

「教育ボランティア」さんは、現在も募集中です。お友達やご近隣の方をお誘いいただき、是非学生の教育にご協力ください。

ご登録希望やお問い合わせは、神戸市看護大学 地域連携・国際交流センター；古谷（078-794-8080：学校代表番号）までお願いします。

編集・発行

神戸市看護大学

地域連携・国際交流センター

広報部門



【教育ボランティアさん(正面)による授業】